

6.まとめ

調査対象としたサロベツ地区は面積約 477 km²ですが、その中央に位置するサロベツ原野は日本最大規模の高層湿原を有しています。サロベツ原野は多種多様な湿原植物、水生植物の宝庫であり、渡り鳥の中継地にもなっています。かつては広大な湿原でしたが、大規模開発で急速に湿原面積が減少しており、長期的な観点を持ち生態系の保全と開発に伴う経済活動との調和が求められています。

本調査で得られた成果及びデータを基礎資料として、生物相の調査や水質・気候等の環境調査やその他の知見も踏まえることで、自然と共生する地域づくりに広く活用されることが期待されます。

本調査の実施に際して、北海道開発局稚内開発建設部、北海道開発局留萌開発建設部、北海道稚内土木現業所、北海道留萌土木現業所、稚内市、豊富町、幌延町、天塩町、北るもい漁業協同組合天塩支所、その他関係機関よりボーリングデータや都市計画図を始め各種資料を提供していただきました。この場を借りて御礼申し上げます。

なお、この報告書に使用した地形図等は、国土地理院が発行している2万5千分1地形図、5万分1地形図、20万分1地勢図及び国土地理院が作成した旧版地形図であり、また使用した写真は、国土地理院撮影の空中写真及び国土地理院が保有する米軍撮影の空中写真、並びに現地調査等で撮影したものであることを付記します。

参考文献

- 青野壽郎・尾留川正平(1979): 日本地誌2 北海道, 二宮書店, 623p.
- 池田安隆・今泉俊文・東郷正美・平川一臣・宮内崇裕・佐藤比呂志編(2002): 第四紀逆断層アトラス, 東京大学出版会, 254p.
- 泉谷毅一・佐久間敏雄・沖田良隆・宍戸信貞(1975): 上サロベツ原野の泥炭土, 土木試験所月報, No.266, p.1-16
- 大平明夫(1995): 完新世におけるサロベツ原野の泥炭地の形成と古環境変化, 地理学評論, 68A-10, p.695-712
- 活断層研究会編(1991): 新編日本の活断層, 東京大学出版会, 437p.
- 上サロベツ自然再生協議会(2006): 上サロベツ自然再生全体構想, 環境省北海道地方事務所, 30p.
- 環境庁(1993): 第4回自然環境保全基礎調査「湖沼調査報告書」北海道版(北海道), 636p.
- 小疇 尚・野上道男・小野有五・平川一臣編(2003): 日本の地形2 北海道, 東京大学出版会, 359p.
- 国土交通省国土地理院(2006): 平成18年 全国都道府県市区町村別面積調, 165p.
- サロベツ再生構想策定検討会(2003): サロベツ自然再生事業湿原および周辺の調査について(環境省資料)
- 産業技術総合研究所(2006): サロベツ断層帯の活動性および活動履歴調査, 「基盤的調査観測対象断層帯の追加・補完調査」成果報告書, No.H17-1, 24p.
- 市町村自治研究会編集(2006): 平成18年版 全国市町村要覧, 531p.
- 天塩町(1975): 天塩町史
- 豊富町(1975): 豊富町史
- 羽山早織・中津川誠(2002): サロベツ湿原の研究経過について, 北海道開発土木研究所月報, No.589, p.32-43
- 幌延町(1975): 幌延町史
- 北海道(1998): サロベツ湿原保全プラン
- 北海道開発庁(1965): 5万分1地質図幅説明書「抜海」, 20p.
- 北海道開発庁(1968): 5万分1地質図幅説明書「沼川」, 46p.
- 北海道立地下資源調査所(1950): 5万分1地質図幅説明書「豊富」, 42p.
- 北海道立地下資源調査所(1981): 5万分1地質図幅説明書「稚咲内」, 26p.
- 安江健一・石井英一(2005): 北海道北部幌延町における大曲 - 豊富断層の正確な位置の特定, 活断層研究, No.25, p.39-45
- 山口恵一郎・佐藤侑・沢田清・清水靖夫・中島義一編(1980): 日本図誌大系 北海道・東北, 朝倉書店, 648p.

(五十音順)

用語集

海跡湖(p2)：砂州や沿岸州・砂嘴などの発達によって海の一部が閉塞されて生じた潟湖のような湖を指す。

ラムサール条約(p2)：正式な名称を「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」といい、1971年に、イランのラムサールで開催された「湿地及び水鳥の保全のための国際会議」で採択された条約。

DGPS(p5)：位置のわかっている基準局が発信するFM放送の電波を利用して、GPS(全地球測位システム)の計測結果の誤差を修正して精度を高める測量技術。Differential Global Positioning Systemの略。

鳥趾状三角州(p8)：平面形態で分類した三角州の一種。分岐した複数の流路に沿って自然堤防が細長く突き出し、全体として鳥の趾・手のひら状を示す。

ホザキノフサモ(p9)：全国の湖沼、池、川などに群生する沈水性の多年草。枝先に穂状花序をつけることから穂先の房藻。葉は緑色の4輪生で流水中では2m位に成長する。花期は5～10月。茎の先端が水上に突出るように4～10cmの穂状花序が伸びる。花序に葉がないのが特徴的である。越冬は水中で耐える。殖芽は作らない。

フトイ(p9)：池や沼などに生える高さ80～200cmの大型の多年草。地下茎は太く地中をはい、地下茎の節から直径1～2cmの太くて丸い茎をのばす。葉はさや状。7～10月頃、茎の先から出た数本の枝の先に小穂をつける。茎が太いことからこの名がついた。

エゾホソイ(p9)：北海道と本州地方以北の亜高山帯～高山帯の湿地に生える多年草。茎は細く、最下の苞を含めて高さ30～90cmある。

コウホネ(p9)：池や沼などの浅い水中に生える多年生の水草。地下茎は白色で太い。水中の葉は細長く海草に似る。水上の葉は長さ20～30cmのだ円形で光沢がある。6～9月頃、水中から突きぬけた花柄の先に5cmほどの黄色い花が上向に咲く。地下茎が白骨に見えることからこの名がついた。地下茎は、強壮、止血などに効く薬としても使われる。

ヒシ(p9)：沼や池に生える1年生水草。水中の泥の中に根をはる。葉は3～6cmの三角形に近いひし形で、水面に浮き、表面につやがあり、ふちにギザギザがある。葉柄はふくらんでおり、浮袋の役目をする。7～10月頃、1cmくらいの白い花をつける。実はひし形で、両側にトゲがあり、古くから食用とされた。実の形からこの名がついた。変種のおニビシは実のトゲが4本ある。

ヨシ(p9)：池沼や河口などに群生する高さ2～3mの大型の多年草。地下茎は太く横にはう。茎は硬く、直立する。葉は長さ20～50cm前後の線形で、互生する。8～10月頃、茎の先に淡紫色の小穂を密につける。アシともいう。

3級図化機(p18)：立体図化機は、精度により1級、2級、3級に分けられ、3級図化機は主として小縮尺の地形図作成用に用いられる。

低層湿原(p2,p18,p37)：地表(湿原)が周りの土地の地下水位より低い湿原。

高層湿原(p2,p18,p37)：地表(湿原)が周りの土地の地下水位より高い湿原。

検土杖(p35)：土壌調査用具の一つで簡易ボーリングにおいて主に使用される。長さ1mまたは1.5m程度の鋼鉄製の棒の先端1/3(30cmまたは50cm)に溝があり、反対側に把手が付けられるようになっている。溝の先端を土壌に押し込み把手を1回転して引き上げ、溝に詰まっている土壌の色や粒径組成を調べる。次に同じ穴に2/3まで押し込んで引き上げる。これを3回繰り返すと90cmあるいは150cmまでの土壌断面の大体の様子がわかる。